

## 平成 26 年 5 月の解説（府県天気予報）

### 【5月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が数日の周期で通過しましたが、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。西日本日本海側の旬間日照時間は、5月上旬としては統計を開始した1961年以降、最も多い値となりました。一方、沖縄・奄美は、旬の前半は冷涼な高気圧に覆われ、後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、気温の低い日が続きました。沖縄・奄美の旬降水量は、5月上旬としては統計を開始した1961年以降最も多い値となりました。

中旬は、北日本から西日本にかけては、上旬と同様に高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。旬の前半は、北・東日本では南から暖かい空気が入り、北日本を中心に気温が平年を大幅に上回りました。16日は、発達した低気圧が千島列島付近に進み、北海道ではオホーツク海側を中心に大雨となりました。一方、沖縄・奄美は、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、東日本から沖縄・奄美では、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。21日は低気圧が発達しながら本州南岸沿いを通過し、東日本を中心に大雨となる場所がありました。北日本では、低気圧や気圧の谷の影響を受ける日が多く、曇りや雨の日が多くなりました。また、オホーツク海高気圧からの冷たい気流の影響を受け、北海道オホーツク海側では気温がかなり低くなる日もありました。旬の終わりは、北・東日本を中心に中国大陸からの暖かい空気が入り、気温が平年を大幅に上回りました。全国的に最高気温が30以上の真夏日となり、各地で5月の気温の最も高い値を更新しました。

月平均気温は、北・東日本で高くなり、3地点で5月の平均気温の高い方からの1位を更新しました。月降水量は、沖縄・奄美で多くなった一方、東・西日本で少なくなりました。月間日照時間は、東・西日本ではかなり多くなり、30地点で5月の日照時間の多い方からの1位を更新しました。また、沖縄・奄美ではかなり少なくなりました。

### 【5月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より4ポイント高い89%で、明後日予報は例年値より7ポイント高い88%でした。各地方の適中率では、明日予報は、例年値に比べて、沖縄地方をのぞく全ての地方で同じか高くなりました。明後日予報も、例年値に比べて、沖縄地方をのぞく全ての地方で高くなりました。特に九州北部から東北地方にかけては7～16ポイント高くなりました。一方、沖縄地方では18ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より0.4小さい1.6でした。各地方では、沖縄地方で例年値と同じで、それ以外のすべての地方で例年値より小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より0.2小さい1.3でした。各地方では、北海道地方で例年値と同じで、それ以外のすべての地方で例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬から下旬にかけて九州から東北地方にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期であり、大きな災害が発生することもあります。

梅雨末期の大雨は、長時間の雨により総降水量が多くなることに加え、短時間強雨により大きな災害をもたらすことがあります。このような天気が予想される場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに留意してください。